

リニア中央新幹線事業に係る関係市町村長とJR東海との意見交換会概要

建設部リニア整備推進局

1 日 時 令和5年12月21日（木）15：00～17：10

2 場 所 飯田合同庁舎 3階講堂

3 出席者

- <市町村長等> 飯田市、下伊那郡13町村、中川村、南木曾町、南信州広域連合
- <長野県> 建設部リニア整備推進局長、南信州地域振興局副局長、飯田建設事務所長
- <JR東海> 宇野 護副社長 他6名
- <鉄道・運輸機構> 関東甲信工事事務次長

4 冒頭あいさつ

【リニア整備推進局長】

- これまでの意見交換会では市町村長から、JR東海の現地体制の強化、発生土置き場や通行車両の安全確保など意見要望を行い、これに対しJR東海からは、現地職員の増員、発生土置き場の安全性確保、車両の通行に関する文書締結など、対応されているところ。
- 今月14日、JR東海から国土交通省へ工事完了の予定時期の変更を含む認可申請が行われ、長野県としては一日も早い整備に向けて、地域の皆様の努力、そして関係市町村長の大変な協力をいただいているなかで、今回、具体的な年次が示されないことは、非常に残念であると受け止めている。完了時期変更の連絡を頂いた際にも要請しているが、これに関して県からは3点お願いしたい。
- 1点目として、開業時期の明確化は、沿線全体の極めて大きな課題であり、県としても様々な場面で、これまでも強く求めてきおり、静岡工区の見通しが立たない状況を早期に解決し、開業時期を早急に明確化することを、改めてJR東海へ求める。
- 2点目として、今回の工事計画の延長が県内工事に影響があるのか精査し、県・関係市町村、地元地域に対して、早急にしっかりした説明を求める。県内工事の工区は住民の皆様の負担を増やさないよう、当初の計画に沿って着実に進めていただくことが第一であるが、仮に影響がある場合には、地元の皆様には様々な思いがあることを十分に念頭に置き、工事をどのように進めていくか考えた上で、市町村長や住民の皆様に、しっかり丁寧に説明し、地元の声を踏まえた対応を行うことを強く求める。
- 3点目は、今回も含め今後リニアの利活用に向けての地域振興につながる意見要望も増えている。開業時期見通しが立たない苦しい時期であればこそ、目線を共有しながら、中間駅地域と一緒に地域振興への取組を進めていくことについて、今後より一層の尽力をお願いする。

【南信州広域連合長（飯田市長）】

- リニア中央新幹線の開業が、南信州、木曾、上伊那地域にもたらすインパクトは非常に大きく期待している。この地域の発展のために大切な土地を提供していただいている地権者の皆さんをはじめ、地元の皆さんの協力のもとに、リニア中央新幹線事業が進んできている。
- 先日の品川-名古屋間の開業時期が2027年以降という形で示されたことについては、残念。もちろん残念ではあるけれど、今回の認可申請は次のステップに向けた前向きな取組みの表れと受け止めている。
- 具体的な開業年次を発表することが難しいと思うものの、例えば、静岡工区の着工から何年、年代に少し幅を持たせ、2020年代中にはとか、2030年代前半だとか、そういう言い方も含めて先が見通せるような示し方もあるのではないか。
- 開業時期が示されないことで、企業誘致や民間投資が進んでいないことは事実。工事が行われている地元の皆さん、工事用車両が通行する沿線の皆さんからすると、県内工事が予定通り終わるのか非常に不安である。
- この会議はこれまで様々な検討課題が提起され、その解消に努めていただいているところであるが、開業時期及び県内工事に関するスケジュールが、今回最大の関心事。
- 本事業は住民の皆様の理解なしには成し得ない。従前にも増して住民の皆様へ寄り添った、きめ細かな対応をお願いするとともに、県や関係市町村との連携を密にして、事業主体、営業主として責任のある対応を重ねてお願いする。
- これから各市町村長が申し上げる意見は切実な地元の声。真摯に受け止めていただき、言葉だけではなく具体的な行動も含めた対応を求める。

【JR東海副社長】

- 先般、国土交通省へ工事実施計画その3の認可申請を行った。中部総合車両基地の建築工事等に取り掛かる段階が来ており着手前に工事実施計画の認可を受ける必要があるため申請したもの。開業時期は、南アルプストンネル静岡工区のトンネル掘削工事に未だ着手の見込みが立たない状況であり、従来から申し上げているとおり、令和9年の開業が困難であることから、令和9年以降として申請した。
- 現時点で新たな開業時期を見通すことが出来ない状況であるが、早期開業に対する沿線の関係の皆様方からの期待が大きいことは十分承知している。引き続き可能な限り早期の開業を目指して、取り組んでいく。
- 現在進めている工事は、地元の皆様に関心事であるが、引き続きペースダウンすることなく全力で取り組んでいく。
- 静岡工区は依然として工事着手できていないが、早期の着手を目指し、大井川の水資源と南アルプスの自然環境への影響に関する地域の懸念を解消できるように取り組んでいるところ。
- 水資源は、当社が提案していた大井川上流のダムを活用する案について、本日、東京電力リニュー

ーアブルパワーと基本合意することができた。

- 環境保全是、12月7日に国が設置した有識者会議の報告書が取りまとめられ、国から課題解決に向けた方向性が示されたところ。環境保全措置、モニタリングの結果から必要な見直しを行う順応的管理という考え方により、静岡県、静岡市等々、関係者と双方向のコミュニケーションを図りながら、全力で取り組んでいく。
- 長野県内の工事の進捗状況は後ほど担当部長より説明するが、かいつまんでお話しする。南アルプストンネルは長野県、山梨県双方から掘削を着実に進めている。伊那山地トンネル青木川非常口は品川方で中央構造線の地質を把握するための調査坑の掘削が完了。8月に風越山トンネルの黒田非常口、10月に中央アルプストンネルの尾越非常口において斜坑の掘削を開始した。長野県駅は、土曾川橋梁の橋脚工事、竜西一貫水路の付替え工事にも着手している。引き続き、長野県の道路整備事業や飯田市の駅周辺整備事業との調整を図りながら、広域の発展につながる新たな拠点となるよう、長野県駅の建設を推進していきたい。
- 発生土活用先は現時点で26箇所が置き場として決定しており、それ以外にも約20箇所、関係者や地元の皆様と調整を進めている。
- 自然由来の重金属等により土壌汚染対策法の基準を超過する発生土は、不溶化した上での活用に向けて検討を行っており、今後有識者の助言を踏まえ活用を進めていく。
- 対策土の自社用地での活用には限りがあるため、引き続き最終的な活用先の斡旋をお願いしたい。あわせて今後は民有地における活用も進めていきたいため、造成後の利用計画や維持管理の主体、方法等について、地区や地権者の皆様と調整を進めていきたい。引き続き候補地情報の提供に加え、地区や地権者との調整に際してもご支援ご協力をお願いしたい。
- 工事の安全、環境の保全、地域との連携を3本柱として重視し、事業を着実に進めてまいらる覚悟。皆様方には引き続きご支援、ご協力をよろしくをお願いしたい。

5 工事の状況説明

○JR東海から、沿線各都県及び長野県内の工事進捗状況等について説明。

6 意見交換内容（発言要旨）

■懸案事項への対応

●環境保全への対策

【市町村】

○井戸枯れ、家屋対策、日照影響の対応を住民へ説明されたい。（喬木村）

○発生土運搬で発生する騒音や粉塵対策への配慮と、運行車両の増加に伴う環境の変化等をしっかりと検証されたい。（中川村）

○水資源、発生土等の扱いについて、協定書に定めがないことについても問題解決に向けて、JR東海の協力をお願いしたい。（南木曾町）

【JR東海】

- 事後調査、モニタリングの結果、及び環境保全措置の実施状況については、年次ごとに取りまとめ、県及び関係市町村に報告しているほか、住民の方がご覧いただけるよう当社のホームページに掲載している。環境測定の結果、万万が一異常な値が発生した場合には、関係市町村に速やかに情報提供を行い、迅速な対応に努める。
- リニア走行に伴う騒音影響を受ける方に対しては、各家屋における防音対策の実施方法について丁寧に説明してまいる。
- 井戸枯れ、家屋対策、日照影響について当社工事が起因するものは、国等の基準に基づく対応を考えている。特に井戸枯れは、環境保全計画書で示しているモニタリング調査を継続的に実施することを基本として、工事による影響の有無を確認する。その上で、万万が一、減水、濁水などの兆候が見られ、工事との因果関係が確認された場合には、応急的・恒久的措置の実施など適切に対応する。
- 農作物への日照影響は、現地の農業利用状況、公共機関等の意見を踏まえた上で、日照影響を調査し対応方法を検討していく。生活環境への影響についても、今後、日照影響を精査した上で、対応方法を検討してまいる。
- 発生土運搬に伴う環境調査の検証は、渡場交差点などで村との確認書に基づく環境調査を確実にを行うほか、調査結果を定期的に地域の方々にお知らせしている。今後も、工事用車両が通行する前の結果との比較や、平常時より大きい値が出た際の分析など、調査結果の検証を確実にを行い、必要な対策を検討していく。
- 水資源への対応方法、発生土置き場の管理方法について新たに確認書を締結したほか、工事用車両の運行等について、締結済みの確認書を更新した。今後は、確認書に記載の事項を順守した上で、地元の要望を聞きながら、丁寧な対応に努める。

●発生土

【市町村】

○発生土受入終了後に管理を完全に移管することではなく、永続的な支援、協力をお願いしたい。

（下條村）

○要対策土の活用については、検討段階のうちから住民の皆様に丁寧な説明をし、理解を得ながら進めていただきたい。公共事業にも広く活用することを検討していただき、本日出席されている市町村長にも、地域全体での協力をお願いしたい。（大鹿村）

【JR東海】

- 「長野県土砂等の盛土等の規制に関する条例」の対象となる箇所は、盛土等の安全性を長野県に確認いただきながら、今後とも地元の皆様に安心していただけるよう進めてまいる。
- 民有地については造成完了後の利用計画があるため、土地所有者に管理していただきたい。適切な管理が継続されるよう、関係者と管理方法、時期等を含めて調整していく。
- 下條村睦沢の発生土置き場は造成完了後、村が利用されるので、村に管理していただきたい。管

理に伴う懸念は話を伺い可能な範囲で協力する。

- 対策土の不溶化による活用を検討するための試験施工を行っており、有識者が参加する検討会にて不溶化の効果を確認できたので、大鹿村のご発言にもあった通り、他市町村でも、不溶化した対策土を公共事業などでご活用いただける可能性が高まるものと思う。
- 対策土は、自社設備用地造成への活用には限りがあるため、公共事業等への活用を含め最終的な活用先の斡旋をお願いしてきたところ。今後は、民有地における活用も進めていきたい。造成後の利用計画や維持管理の主体、方法等に関して、地区、地権者等と調整を進めていきたい。引き続き、候補地情報の提供に加えて、地区、地権者等との調整に際しては、関係自治体の協力を願います。

●工事車両の運行及び安全対策

【市町村】

- 果物狩りシーズンの運行車両台数について配慮していただいたことに感謝しており、今後も引き続きお願いしたい。（松川町）
- 工事車両の運行台数やルートの分散についてはこれまでもお願いしているが、住民生活への影響軽減をお願いしたい。（喬木村）
- 村道は村とJR東海が調整して道路を整備しているが、県道は県とJR東海が調整しているため、道路によって程度に差が生じている。住民の意見を聞きながら調整をお願いしたい。（豊丘村）
- 交通安全対策には、引き続き十分留意されたい。工事期間中の運搬路の維持について、騒音振動軽減のための道路補修を道路管理者と連携し、問題があった場合には迅速に対応していただきたい。（中川村）

【JR東海】

- 工事用車両の通行に際しては、一般車両を優先し、交通法規の遵守、運転マナーなどに配慮するとともに、運行ルートを分散化するなど、できるだけ地元には負担がかからないように取り組んでいる。
- 工事用車両の運行方法等、工事の実施にあたり地元から頂いている要望については、市・町・村と確認書を結んでおり、今後も、確認書の内容を順守し、工事影響の低減や安全対策の徹底に努める。
- 松川町において、今年度の大鹿村からの発生土運搬では、ゴールデンウィーク、お盆、年末年始に加え、土曜日に20日間の運休を行っている。来年度は観光シーズンに配慮し、4月から11月については、大鹿村のご協力もあり発生土を大鹿村で計画的に活用することを調整できたことから、土曜日を全運休とする予定。
- 工事用車両の通行台数、ルート分散について、中央新幹線阿島北高架橋ほか新設工区等では、他市町村とも調整の上で、広域的なルート分散を行い、通行台数の平準化を図る。
- 工事用車両の走行により舗装が損傷するなど、修繕・改良の必要が生じた場合には、道路管理者

と調整のうえ対応する。降雪時における対応として、警報が発表された場合に発生土運搬を適時休止する等、引き続き安全管理を徹底する。

●開業時期について

【市町村】

- 開業時期が遅れることに伴って、駅舎の整備も遅れるということになると、飯田市の駅前広場整備事業のスケジュールも組み直さないといけない。追加工事が必要となることも想定され、それをそろそろ考えないといけない時期。2027より遅れるということであればそれを是非何らかのタイミングで、表明していただきたい。（飯田市）
- 先を見据えたまちづくりのためにも、早期の開業時期の明示をお願いしたい。（松川町）
- ガイドウェイ跡地の活用や工事施工ヤードの土地利用について、地権者の計画が立たないことから、早期に工事の終了時期や事業の見通しをお知らせ願う。（喬木村）

【JR東海】

- ・南アルプストンネル静岡工区のトンネル掘削工事に未だ着手の見込みが立たないため、令和9年（2027年）の開業は困難であり、現時点で開業時期を見通すことができない状況。
- ・南アルプストンネルは全線の中で最も難易度が高く工期も厳しい工区のひとつであり、早期に着手する必要があった。南アルプストンネル静岡工区は、2017年11月に工事契約を締結したものの、トンネル掘削工事に着手できないまま、契約の締結から約6年が経過しており、開業時期に直結する遅れとなっている。南アルプストンネル静岡工区以外の一部の工区についても工程が厳しくタイトではあるが、未だトンネル掘削工事の着手の見込みが立たない静岡工区のようなことはない。
- ・中央新幹線に対しては沿線の関係者をはじめ多くの方々から期待の声をいただいております。早期開業をめざしていく。

●市町村業務についての課題

【市町村】

- 県との用地取得事務の業務委託が今年度末で終了し、今後はJR東海が直接交渉することと思われるが、残っているのは交渉難航事案で、そうした中で市町村や地域との関わりは非常に大きく、地域との連携のためにも対策会議等の自治体職員の人件費の支援をお願いしたい。また、地域住民の不安に 대응するため独自で環境測定を実施しており、こうしたものに対する財政的支援をお願いしたい。（喬木村）

【JR東海】

- ・各市町村においては、中央新幹線工事に関わる対策委員会等の開催、独自調査等を実施していた

だき、感謝申し上げます。一方で、特定の市町村が主催する対策委員会や独自で行われている環境調査については、当社の調査結果を確認するなどの理由で行われているものとなるため、人件費等の費用負担は難しく、理解いただきたい。

■地元とのコミュニケーション

●地元への対応

【市町村】

- 工事が延びると工事車両の影響など住民の不安に繋がる。見通しを早めに示し地元の理解を得る必要があることから、丁寧な対応と説明をお願いします。（飯田市）
- 当村は今後工事が本格化することから、地元住民が気楽に相談できる環境のためにも、現地事務所を設置をお願いしたい。（阿智村）
- 工事が早く進むよう隣接する市町村・県との調整と丁寧な対応をお願いしたい。（阿智村）
- 工程変更に伴う円滑な地域調整と現実的な工期の早期提示をお願いします。（喬木村）
- 高架橋の基礎コンクリート打設が住宅に非常に近いところで、朝の6時から夜の8時までの工事時間で作業が進められ、通行車両が多く朝晩渋滞するところに多くの生コン車が往来している。早朝、夜間の騒音は住民生活に影響するため、日数の分散や施工時間の短縮について対応を求める。（喬木村）
- コミュニケーションがしっかりとれ、お互いに言いたいことが言える関係が構築できている。引き続き懇談や懇親する機会を設けてはいかがか。（豊丘村）
- 諸々の対応がきめ細かく迅速にできるように、現地機関の体制強化をお願いしたい。（中川村）
- 引き続き住民の不安払しょくに関して、丁寧な対応をお願いしたい。（南木曾町）
- 町内に現場事務所を設け、町とJR東海が連絡を密に取り合えるような環境整備に配慮いただきたい。（南木曾町）

【JR東海】

- ・当社としては、県・市町村・地域の方々との信頼関係が何よりも重要であると考えており、日頃から各地区の連絡協議会や対策委員会等を通じて定期的にコミュニケーションを図りながら事業を進めている。今後も、地元のご意見・ご要望をお聞きした上で、丁寧な対応に努める。
- ・県内の工事状況について、積極的な情報発信に努めており、昨年11月より、飯田ケーブルテレビと共に制作した番組「教えて！リニアのリアル」を当社YouTube「リニア中央新幹線チャンネル」にて公開している。
- ・各地に現地事務所等を設置することは、当社の人員が限られていることから難しいが、地元との連携強化を目的に、定例打合せや、当社社員がお伺いし、地元の方々との信頼関係を構築できるように努めている。今後とも、地域の方々の意見を踏まえつつ、丁寧な対応に努める。
- ・自治体を跨いだ発生土処理等の調整については、今後検討させていただきたい。
- ・コンクリート打設の工事時間帯については、構造物の品質管理上問題無い範囲で、1日あたりの

コンクリート打設量の平準化を図ることで対応していきたい。

- 地元との信頼関係の構築は重要だと考えており、豊丘村では、「とよおかまつり」に当社が毎年出展しているリニアブースについて、ご好評いただいていると伺っている。引き続き、丁寧な対応に努めていく。

■地域振興、地元への貢献

●地域振興、観光振興及び地元貢献

【市町村】

- 観光振興では、ウォーキングイベントの開催や中京方面での観光キャンペーンの実施等、JR東海からスタッフ派遣等の協力をいただいた。また、サイクルツーリズムの推進としてダンプカー運転手とサイクリストの交流を通じ、安全意識を高め相互理解を深めるなど、いろいろな形で協力いただき感謝している。リニア開業後も地域の振興に協力いただきたい。（大鹿村）
- 観光振興や産業振興についてもお互いに協力し合える体制の構築や、地域振興協議会のような組織を立ち上げられればよいと考えている。個々の市町村との関係性にもしっかりと目を向けていただきたい。（大鹿村）

【JR東海】

- 大鹿村における地域振興については、当社が9月に開催したさわやかウォーキングにおいて、大鹿村が間伐材を用いて作成したキーホルダーの配布のほか、大鹿村の特産品を販売するブースの出展を行い、イベントに参加された方から大変ご好評をいただいた。リニア中央新幹線開業後はもちろんのこと、開業までの間においても地域の魅力をアピールしていくことは、大変重要なことである。当社としても鉄道事業者の立場から、沿線各自治体等と連携の上、観光振興に取り組んでいく考えであり、それに向けた体制の構築についても、前広に意見交換していきたい。

■その他

●その他

【市町村】

- 駅の外観について、駅周辺の景観にマッチするような仕様・デザインをお願いしたい。（飯田市）
- 太陽光パネル設置など、再生可能エネルギーの活用を考えているので、駅舎上部に太陽光パネルが置けるような形で検討いただきたい。（飯田市）
- 自由席や定期券などの設定を前向きに検討していただきたい。（高森町）
- 諏訪や上伊那方面への移動・輸送手段について考えていく必要がある。飯田線の高速化や利活用について考えを示していただきたい。（高森町）

【JR東海】

- 駅のデザインや仕様および高架下の利用などについて、地元のご要望により当社施設を追加整

備する場合は、地元を負担いただくことを前提に検討させていただくことになるが、具体的な考えを早めに提示していただければ、対応可能な部分は調整させていただく。

- 太陽光パネルの設置について、今後の駅周辺での設備配置や駅デザイン等を踏まえ、飯田市から具体的な検討案を提示いただきながら調整したい。
- 自由席や定期券の制度について、現時点ではそのような制度化は考えていない。運賃や切符の種類等は、開業時期の経済情勢や他の輸送機関の動向も踏まえて、開業が近づく中で検討していきたい。
- 飯田線による上伊那方面への高速化について、開業が近づいた時点で、そのときの社会や経済の状況などを勘案して決めていくことになる。

●意見交換会におけるJR東海からの回答を踏まえて

○県内工事の時期の見直しについて直ちに行うことはないとのことであったが、再度確認したい。

（飯田市）

- 県内各所で地元の協力をいただきながら全力で工事を進めている。緩めずに全力で工事を進めていくという方針で実施していく。（JR東海）

○要対策土の活用については、住民の理解が十分に得られていない印象を持っている。これまで自社用地での活用であるとか、現地視察の実施など、着実にステップを上げてきているが、住民の理解には至っていないという認識。JR東海にもそういう認識を持ってもらい、住民の理解を得ていくためにはより丁寧な説明を実施して、合意形成を図ってほしい。（大鹿村）

- 了解。（JR東海）

○工事用車両の集中について平準化の対応をしているとの回答があったが、今後地元とコミュニケーションを取り、更なる平準化・影響緩和に向けて努力していただくことでよいか。（長野県）

- これで終わりではなく、いろいろ知恵を絞りながら地元の皆様への影響の低減を、常に考えてまわりたい。（JR東海）